



TITLE:

表紙・投稿規定・プレプリント案内・編集後記・裏表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙・投稿規定・プレプリント案内・編集後記・裏表紙ほか. 物性研究 1989, 52(1): 91-102

ISSUE DATE:

1989-04-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/93610>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可  
平成元年4月20日発行(毎月1回20日発行)  
物 性 研 究 第52巻 第1号

ISSN 0525-2997

**vol.52 no.1**

# 物性研究

**1989/4**

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにしてください。

### 投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、立体“ $\square$ ”、イタリック“ $\textit{—}$ ”、ゴシック“ $\text{—}$ ”、ギリシャ文字“ $\text{ギ}$ ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくい $o$ と $a$ と $0$ (ゼロ)、 $u$ と $n$ と $r$ 、 $c$ と $e$ 、 $l$ (エル)と $1$ (イチ)、 $x$ と $\times$ (カケル)、 $u$ と $v$ 、 $\dagger$ (ダガー)と $+$ (プラス)、 $\psi$ と $\phi$ と $\Psi$ と $\Phi$ 等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（ $13\times 19\text{cm}$ ）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにしてください。

### 投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、立体“ $\square$ ”、イタリック“ $\textit{—}$ ”、ゴシック“ $\text{—}$ ”、ギリシャ文字“ $\text{ギ}$ ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくい $o$ と $a$ と $0$ (ゼロ)、 $u$ と $n$ と $r$ 、 $c$ と $e$ 、 $l$ (エル)と $1$ (イチ)、 $x$ と $\times$ (カケル)、 $u$ と $v$ 、 $\dagger$ (ダガー)と $+$ (プラス)、 $\psi$ と $\phi$ と $\Psi$ と $\Phi$ 等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（ $13\times 19\text{cm}$ ）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

## 議 事 録

### 第3回物性専門委員会(第14期)議事録

日時： 1989年3月27日(水) 13:40-16:40

出席者： 伊達宗行 石井武比古 遠藤裕久 勝木 渥  
 糟谷忠雄 川村 清 久保亮五 小林俊一 佐藤清雄  
 恒藤敏彦 豊沢 豊 長岡洋介 守谷 亨 藤田敏三  
 山田銑二 山田安定 禪 素英

#### 1. 前回議事録に次の修正を行い、確認した。

- 1) p 1 下から2行目 目片 守氏の所属を「福井大工」と訂正。
- 2) p 2 下から8行目 「同研究所所蔵者から1名を選ぶことは」を削除。

#### 2. 物研連報告

- (伊達) 3月8日に物研連委員会議が開かれ、1. 核融合、2. 宇宙物理、3. SSC\*、4. 中性子物理の四つの大型研究について特に国際協力に関してヒアリングを行った。また、京大基研と広大理論研の合併についての経過報告を受けた。
- (長岡) 物研連での報告と前回の物性専門委員会での報告との間に違いがあるので説明しておく。前回の物性専門委員会では合併のための概算要求を来年出すと言ったが、その後理論研が宇治に移ることになり今年概算要求することとなった。

#### 3. 物性専門委員の補充について

欠員の2名のうち1名は前回の議論に基づき飯泉仁氏(原研)に就任を依頼し、もう1名を放射光学会に推薦を依頼して補充することとした。

---

\*米国エネルギー省関係のSuperconducting Supercollider建設計画

#### 4. ワーキンググループの構成について。

前回設置を決めた二つのワーキンググループのメンバーについて伊達、糟谷両氏から提案された原案を検討し、次のように決定した。

○大型施設ワーキンググループ（伊達宗行委員長）：伊達宗行、糟谷忠雄、上村洸、石井武比古、山田安定、遠藤康夫、渡辺昇、放射光学会から推薦を受けて補充する物性専門委員1名。

○物性将来計画ワーキンググループ（糟谷忠雄委員長）：糟谷忠雄、伊達宗行、守谷亨、安岡弘志、仁科雄一郎、鈴木増雄、川村清、川路紳治。

#### 5. 物性研究の将来計画について。

##### 1) 物性研究所のスーパーコンピュータについて。

物性研究所から配付された試料に基づき守谷所長から次のような説明があった。

「物性関係の計算能力の増大を計るためにスーパーコンピュータ2台と汎用コンピュータ1台の概算要求を出したが通らなかった。前者のうち1台は物性に関する大型の計算プロジェクトを公募し、認められたものについて無料でタイムシェア無しに使ってもらうことを考えた。レンタル料は年間約7億円と見積っていた（ちなみにKEKのレンタル料は年間約12億円である）。大型計算センターのスーパーコンピュータの利用者は、物性関係が一番多いのに、プラズマ、高エネルギー、分子科学などの諸分野が持っている専用のスーパーコンピュータが物性にはない。若手研究者の要求も強く今後も概算要求をしたいので物性専門委員会の支持を頂きたい。」

これについて議論し、委員から次のような発言があった。

○他分野と比較し、物性関係のスーパーコンピュータの事情は確かに遅れている。例えば、バンド計算が無料でタイムシェア無しに迅速に行えるということは必要だ。

○若い研究者の間にも、物性研に任せるのではなく、物性専門委

員会のようなところで議論し必要性を理解して欲しいという意見が出てきている。まず、物性専用のスーパーコンピュータが必要かどうかを議論し、必要となればどこに設置するのがよいか、という順序で議論すべきであろう。

○物性専門委員会で支持するためには、共同利用のための施設であるということを強調しなくてはならない。しかし、単なる共同利用だと、大型計算センターと競合するので、プロジェクト研究に使うということも強調するなど説得力のある理由付けが必要である。

以上のような議論の後、今回は、スーパーコンピュータの設置に熱心な人を招いてヒアリングをすることとなった。

## 2) 物性研の中性子散乱将来計画について。

議論に先立ち、3月8日の物研連委員会議において、山田安定氏より定常的中性子源による国際共同研究について、またパルス中性子源による国際共同研究について遠藤康夫氏より説明を受けた旨伊達委員長から報告があり、ついで、配付された物性研の資料に基づき山田(安)委員から以下のような説明があった。

「前期物性専門委員会の伊達ワーキンググループの将来計画に基づき中性子散乱関係研究者による将来計画委員会で作業を進めている。定常中性子源とパルス中性子源による研究の両方について作業が進められている。定常中性子源を使う研究としては、1990-1991年には改3号炉とそれに関連する施設の建設を計画している。1995年以後は次期将来計画としてANS計画\*に関係した国際協力研究を推進することを考えている。パルス中性子源による研究は大型ハドロン計画の一環として行う。本日は、前者について説明する。

10-20MWで中性子束が $10^{14}\text{cm}^{-2}\text{s}^{-1}$ 程度のものを中型と呼び改3号炉もこれに属する。この炉にはneutron guideが付設され、これ

---

\* 米国エネルギー省関係のAdvanced Neutron Source建設計画

を全国共同利用に供するために物性研中性子回折研究施設を原研におく。ビーム強度、マシンタイム、および装置数の増加によって研究の効率も単純に計算すれば1桁上がる。将来は大型のANS（中性子束 $10^{16}\text{cm}^{-2}\text{s}^{-1}$ ）を国際協力の形で利用したい。

13期物研連で改3号炉の設備計画の推進について支援していただいたが、炉室内のスペクトロメータはできたものの、炉室外、ガイドホール関係設備はまだ建設のめどが立たず困っている。もう一度、物研連の支持をお願いしたい。」

これに基づき質疑応答と意見交換を行い、次の物研連の専門委員会報告の中で進行状況が遺憾であると話して引き続き物研連の支援を要請し、受け入れられればその旨を外部に伝えることとした。

3) その他の将来計画に関する諸問題について。

伊達委員長から、次のような問題提起があった。

○宇宙空間利用の物性科学。1995年ぐらいから表面化してくると思われ、科技庁でも基礎調査を開始した。どのように話を進めていくか考えて欲しい。

○パルス中性子。大型ハドロン計画に入れることについては合意があったが、遅れた場合の対策も含めて将来の問題を考えたい。

○科技庁の西播磨SORについて。将来起こりうる諸問題について、先手を取って議論したい。

○国際協力について。高エネルギー分野のSSCや物性分野のANSなどを進めるとすれば財政的負担も大変な額だが、学問的・行政的にまだ幾つかの困難が予想される。

これを受けて次のような意見が出された。

○大型の研究計画を推進するに当たって、財政的高負担が物性の基礎研究全般にマイナスにならないような体制も考える必要があるだろう。

○前期の金森委員会の議論を具体化する必要がある。特に物性研と金研を囲んで国分寺戦略をどう進めていくか、という議論が



ら進めて行きたい。

○特に、2年前に共同利用研となった金研は、強磁場、超ウランの研究、大型コンピュータを使ったdata base作り、新素材開発など物性に関係のある研究計画があり、物性専門委員会としても、金研の在り方について関心をもって行きたい。  
委員長の問題提起とこれらの議論を二つのワーキンググループで引き継いでいくこととした。

以上

## プレプリント案内

[京都大学基礎物理学研究所]

- 4-1 Zheng Qing Qi, Zeng Zhi and Pan Wei  
The Charge Fluctuation Induced by Stretching  
Motion in  $\text{YBa}_2\text{Cu}_3\text{O}_7$
- 4-2 J.Q. Shen and C.W. Lung  
Influence of Shallow Trapped State on Positron  
Specific Trapping Rate in Small-Size Vacancy  
Clusters
- 4-3 C. Aragão de Carvalho  
On the Dimerization of Linear Polymers
- 4-4 V. Zlatić, P. Entel, B. Horvatić and D. Schulz  
Perturbative Treatment of Local Correlations in  
Cu-O Planes for High Temperature Superconductors
- 4-5 C. Wiecko  
Interpretation for "High"- $T_c$  of the Totally  
Interconnected Solution of the Ma and Lee Model
- 4-6 Wu Ji-an, Zhou Jie and Zhang Da-ren  
Theoretical Study of the Pd-B Complex in Silicon
- 4-7 X.Y. Wang and Z.M. Sun  
Nonlinear Dynamical Phenomena in Liquid Crystals
- 4-8 R. Baquero, A. Camacho and L. Quiroga  
Surface and Interface Local Density of States  
for Nb, V and Ta
- 4-9 A.G. Saif and J. Chela-Flores  
Nucleation of Superconductivity in Ceramic Oxides
- 4-10 D.I. Pushkarov and M.T. Primatarowa  
Soliton Excitations in Deformable Solids
- 4-11 M. Sunjić and Z. Lenac  
Finite Size Effects in Wigner Crystallization of  
Electrons on Liquid Helium Layers

- 4-12 A.A. Belov, Yu.E. Lozovik and V.L. Pokrovsky  
Lams Shift of Rydberg Atoms in a Resonator
- 4-13 Andrzej M. Oleś and Jan Zaanen  
Localized versus Itinerant Picture of Light-Tc  
Superconducting Oxides
- 4-14 Patrik Fazekas and Karlo Penc  
Generalized Gutzwiller Ansatz for the Half-Filled  
Hubbard Chain
- 4-15 V.L. Pokrovsky, L.P. Pryadko and A.L. Talapov  
Resonance Tunnelling and Breakdown of the Quantum  
Hall Effect in Strong Electric Fields
- 4-16 R.I.M.A. Rashid and N.H. March  
Vacancy Formation Energies in Close-Packed  
Crystals Correlated with Melting Temperature via  
Thermodynamics and Liquid Structure
- 4-17 O.V. Dolgov and A.A. Golubov  
Energy Gap in S- and D-Wave Pairing Super-  
conductors
- 4-18 A.A. Golubov  
Thermodynamic Characteristics of Y-Ba-Cu-O Type  
Compounds in the Model of Strong Electron-Phonon  
Coupling
- 4-19 John S. Nkoma  
Theory of Raman Scattering by Surface Polaritons  
in a four Media System
- 4-20 A. Ferrante and M.P. Tosi  
Bond Particle Model for Semiconductor Melts and  
its Application to Liquid Structure of Germanium
- 4-21 U. Gambardella and G. Paternò  
Transport Critical Current Measurements on  
 $Y_1 Ba_2 Cu_3 O_7$
- 4-22 F. Celani, L. Fruchter, C. Giovannella, R. Messi,  
S. Pace, A. Saggese and N. Sparvieri  
Torque Measurements of Textured  $Y_1 Ba_2 Cu_3 O_{7-x}$   
Sintered Pellets

プレプリント案内

- 4-23 G. Basini, C. Bianchi, F. Bongiorno, A. Codino,  
L. De Bortoli, C. Grimani, M. Menichelli,  
A. Morselli, M. Occhigrossi, P. Picozza, M. Ricci,  
E. Rongoni, I. Salvatori and P. Spillantini  
A Fast, Low Power Consumption Readout System for a  
Space Based Calorimeter
- 4-24 E. De Sanctis  
A Critical Review of Deuteron Photodisintegration  
Data
- 4-25 G. Di Pirro and L. Trasatti  
Etherfar: A Long Distance Fiber Optic Ethernet  
Connection
- 4-26 M. L. Ferrer, E. Pace, G. Mirabelli and E. Valente  
A Model of an Application Relay for File Transfer,  
Access, and Management
- 4-27 B. D'Ettorre Piazzoli  
Surface and Underground Experiments at the Gran  
Sasso
- 4-28 I. Davoli, Zhu Zhi Ji, P. Chiaradia, S. Priori and  
M. Fanfoni  
A Glow Discharge Process for Optical Elements  
Cleaning
- 4-29 L. Maritato and C. Sanelli  
Preliminary Electromagnetic and Cryogenic Calcula-  
tions of SMASH Superconducting Coil
- 4-30 T. Csiba, G. Kriza and A. Jánosy  
Propagation of Charge-Density Wave Voltage Noise  
along a Blue Bronze,  $\text{Rb}_{0.3}\text{MoO}_3$  Crystal
- 4-31 K. Tsumori and H. Akimune  
Phase Properties of the Rapid Cooled Palladium-  
Silicon Alloy in the Concentration Range 40 to 58  
At.% Si
- 4-32 X.G. Wen and A. Zee  
Abnormal Screening in the Quantum Disordered  
Phases of Non-Linear  $\sigma$ -Models

- 4-33 B. Doucot and X.G. Wen  
The Instability of the Nagaoka State with More Than One Hole
- 4-34 Daniel P. Arovas  
Two Exact Excited States for the  $S=1$  AKLT Chain
- 4-35 Stefan Schmitt-Rink, Chandra M. Varma and Andrei E. Ruckenstein  
Pairing in Two Dimensions : Breakdown of Fermi-Liquid Theory?
- 4-36 Sadao Isotani, Américo Tsuneo Fujii, Rodolfo Antonini and Wagner Wilson Furtado  
Optical Absorption Study of Radiation and Thermal Effects in Brazilian Samples of Spodumene
- 4-37 Wagner W.Furtado, Sadao Isotani, Rodolfo Antonini, Ana Regina Blak and Walter Maigon Pontuschka  
Numerical Integration Method Applied to the Study of Atomic Hydrogen in  $\alpha$ -Si:(H,O,N) and Natural Beryl Decay Kinetics
- 4-38 Sadao Isotani, Wagner W. Furtado, Radolfo Antonini and Osvaldo Luis Dias  
Line Shape and Thermal Kinetics Analysis of the  $\text{Fe}^{2+}$ -Band in Brazilian Green Beryl
- 4-39 Ana Regina Blak, Walter Maigon Pontuschka and Sadao Isotani  
Electron Paramagnetic Resonance of Hydrogen Centers in Natural Beryl
- 4-40 Liao-Yuan Chen and Zhao-Bin Su  
Equivalence Between Quantum Boltzmann Equation and Kubo Formula for DC Conductivity

---

ニュース

---

〔九州大学教養部〕

○セミナー

2月21日 武田 信一(九大・教養)

「金属-非金属転移を伴う液体の構造と音波の伝播」

3月7日 井上 耕一郎(九大・理・M2)

「Si(100)表面ランダム系の電子状態」

3月14日 宮崎 純(九大・理・M2)

「三角格子反強磁性ハイゼンベルク模型のRVB平均場近似」

## 編集後記

ひところの高温超伝導は一種の社会現象であったが、今日ではまた地道な研究が後を受け継いだ状態に落ちついている。その画期的な意義はともかく、高温超伝導物質が手工芸的な手軽さで得られてしまうところに親しみを感じた人も多かったことだろう。この3月末には、また新しい物理のニュースが新聞や週刊誌を賑わしている。すなわち試験管の中での低温核融合である。重水にパラジウムと白金の電極をたらし、電流を流すというだけのものだが、やはりこの手軽さが受けているようだ。もっとも今のところこちらのニュースの真偽は否定的なものようである。

そうしたことはともかく、今日では巨大科学よりも、各個人の多様で独創的研究に対して以前よりも楽観的な気分があるように思われる。これを良い意味にとれば、一種の活気であるが、本誌にもこの活気を取り込んでいきたいものだ。

(T. T.)

[物性研究]	発行人	小貫 明	(京大基研)
	編集長	小貫 明	(京大基研)
編集員	網代 芳民	(京大・理・化学)	
	池田 研介	(京大基研)	
	蔵本 由紀	(京大・理・物理)	
	戸谷 隆雄	(京大・理・物理)	
	富田 博之	(京大・教養・物理)	
	水崎 隆雄	(京大・理・物理)	
各地編集員	阿波 克之	(北大・理・物理)	
	都築 俊夫	(東北大・理・物理)	
	鈴木 増雄	(東大・理・物理)	
	松田 祐司	(東大・教養・基礎科学)	
	小川 泰	(筑波大・物理工学)	
	高野 宏	(慶応義塾大・理工・物理)	
	勝木 渥	(信州大・理・物理)	
	高野 健一	(名大・理・物理)	
	五十嵐 潤一	(阪大・理・物理)	
	関本 謙	(九大・理)	

(1989.4.現在)

---

物 性 研 究 第 52 卷第 1 号 (平成元年 4 月号) 1989 年 4 月 20 日発行

発行人	小 貫 明	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒 606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	15,600円		

---



[物性研究]	発行人	小貫 明	(京大基研)
	編集長	小貫 明	(京大基研)
編集員	網代 芳民	(京大・理・化学)	
	池田 研介	(京大基研)	
	蔵本 由紀	(京大・理・物理)	
	戸谷 隆雄	(京大・理・物理)	
	富田 博之	(京大・教養・物理)	
	水崎 隆雄	(京大・理・物理)	
各地編集員	阿波 克之	(北大・理・物理)	
	都築 俊夫	(東北大・理・物理)	
	鈴木 増雄	(東大・理・物理)	
	松田 祐司	(東大・教養・基礎科学)	
	小川 泰	(筑波大・物理工学)	
	高野 宏	(慶応義塾大・理工・物理)	
	勝木 渥	(信州大・理・物理)	
	高野 健一	(名大・理・物理)	
	五十嵐 潤一	(阪大・理・物理)	
	関本 謙	(九大・理)	

(1989.4.現在)

---

物 性 研 究 第 52 卷第 1 号 (平成元年 4 月号) 1989 年 4 月 20 日発行

発行人	小 貫 明	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒 606	京都市百万辺交差点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	15,600円		

---

## 会員規定

### 個人会員

1. 会費：当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月末までになるべく1年間分会費を御支払い下さい。  
なお新規入会お申込みの場合は下記の会費以外に入会金として、100円お支払い下さい。

#### 1年間の会費

1st volume (4月号～9月号)	4,200円
2nd volume (10月号～3月号)	4,200円
計	8,400円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。  
(振替貯金口座 京都1-5312) (現金書留は御遠慮下さい)  
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。  
雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず会員本人の名前を明記して下さい。
3. 送本中止の場合：次の volume より送本中止を希望される場合、かならず「退会届」を送付して下さい。
4. 会費の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vols. 以上の会費を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人宛送本中に大学等で一括配布を受ける様になった場合は、必ず「個人宛送本中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等により送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

### 学校、研究所等機関会員

1. 会費：学校・研究所等での入会及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1冊 1,300円、1 Vol. 7,800円、年間15,600円です。この場合、入会金は不用です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。入会申込みをされる時、支払いに請求、見積、納品書が各何通必要かをお知らせ下さい。  
なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校、貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合：発行途上にある volume の途中送本中止は認められません。退会される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「退会届」を送付して下さい。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

☎ (075)751-2111 内線7051 (075)722-3540(直通)

## 物 性 研 究 52—1 (4月号) 目 次

### ○講義ノート

「神経回路網の数理」……………甘利 俊一……………1

神経回路網の数理—問題と回答例(補足)

……………田森 佳秀, 濱中 雅彦……………41

「高温超伝導体」……………立木 昌……………51

### ○議事録

第3回物性専門委員会(第14期)議事録……………91

○プレプリント案内……………96

○ニュース……………100

○編集後記……………101

## 物 性 研 究 52—1 (4月号) 目 次

### ○講義ノート

「神経回路網の数理」.....甘利 俊一..... 1

神経回路網の数理—問題と回答例(補足)

.....田森 佳秀, 濱中 雅彦.....41

「高温超伝導体」.....立木 昌.....51

### ○議事録

第3回物性専門委員会(第14期)議事録.....91

○プレプリント案内.....96

○ニュース.....100

○編集後記.....101